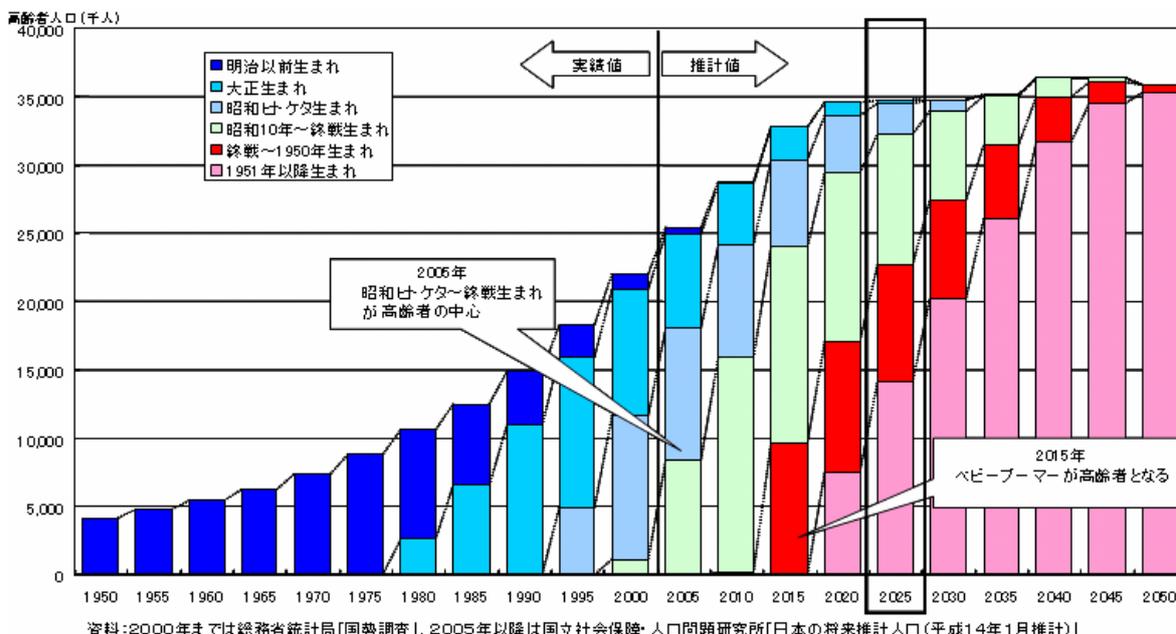


# 今後の高齢化の進展 ～2025年の超高齢社会像～

## 1. 高齢者人口の推移

- 平成27(2015)年には「ベビーブーム世代」が前期高齢者(65～74歳)に到達し、その10年後(平成37(2025)年には高齢者人口は(約3,500万人)に達すると推計される。(図1)
- これまでの高齢化の問題は、高齢化の進展の「速さ」の問題であったが、平成27(2015)年以降は、高齢化率の「高さ」(＝高齢者数の多さ)が問題となる。

図1 世代別に見た高齢者人口の推移



## 2. 認知症高齢者数の見通し

- 認知症高齢者数は、平成 14(2002)年現在約 150 万人であるが、2025 年には約 320 万人になると推計される。(表 1)
- 平成 14(2002)年 9 月現在の状況をみると、要介護者の 1 / 2 は、認知症の影響が認められており、今後、認知症高齢者は急速に増加すると見込まれる。

表 1 認知症高齢者数の見通し

要介護者の認知症老人 自立度 (2002年9月末現在)		要介護者 要支援者	認定申請時の所在(再掲) 単位: 万人				
			居宅	特別養 護老人 ホーム	老人保 健施設	介護療養型 医療施設	その他の 施設
総 数		314	210	32	25	12	34
再 掲	認知症自立度Ⅱ以上	149	73	27	20	10	19
	認知症自立度Ⅲ以上	79 (25)	28 (15)	20 (4)	13 (4)	8 (1)	11 (2)

将来推 計	2002	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
認知症 自立度Ⅱ 以上	149	169	208	250	289	323	353	376	385	378
	6.3	6.7	7.2	7.6	8.4	9.3	10.2	10.7	10.6	10.4
認知症 自立度Ⅲ 以上	79	90	111	135	157	176	192	205	212	208
	3.4	3.6	3.9	4.1	4.5	5.1	5.5	5.8	5.8	5.7

※ 下段は、65歳以上人口比(%)

(平成15年6月 厚生労働省老健局総務課推計)

参考:

自立度Ⅱ: 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。

自立度Ⅲ: 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。

### 3. 高齢者の世帯の見通し

- 世帯主が65歳以上である高齢者の世帯数は、平成 17(2005)年現在 1,340 万世帯程度であるが、平成 37(2025)年には、約 1,840 万世帯に増加すると見込まれる。(表2)
- また、平成 37(2025)年には、高齢者の世帯の約7割を一人暮らし・高齢夫婦のみ世帯が占めると見込まれる。中でも高齢者の一人暮らし世帯の増加が著しく、一人暮らし世帯は約 680 万世帯(約 37%)に達すると見込まれる。(表2、図2)

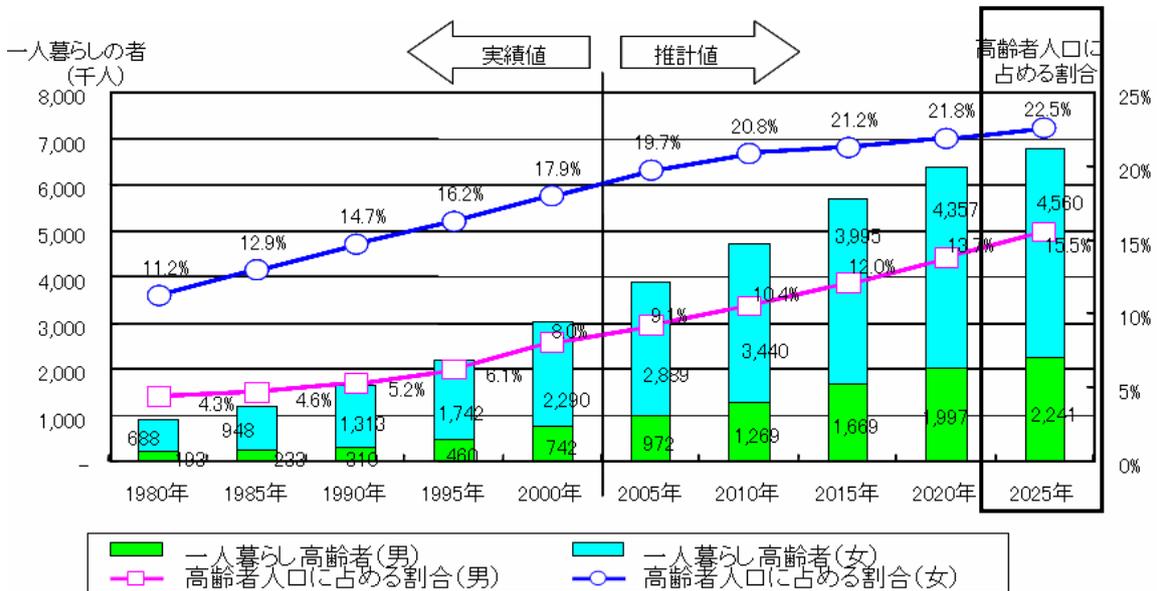
表2 高齢者世帯の将来推計

		(万世帯)					
		2000	2005	2010	2015	2020	2025
一般世帯		4,678	4,904	5,014	5,048	5,027	4,964
世帯主が65歳以上		1,114	1,338	1,541	1,762	1,847	1,843
	単独	303	386	471	566	635	680
	比率	27.2%	28.9%	30.6%	32.2%	34.4%	36.9%
	夫婦のみ	385	470	542	614	631	609
	比率	34.6%	35.1%	35.2%	34.8%	34.2%	33.1%

(注) 比率は、世帯主が65歳以上の世帯に占める割合である。

出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計—平成15年10月推計—」

図2 高齢一人暮らし世帯数の推移

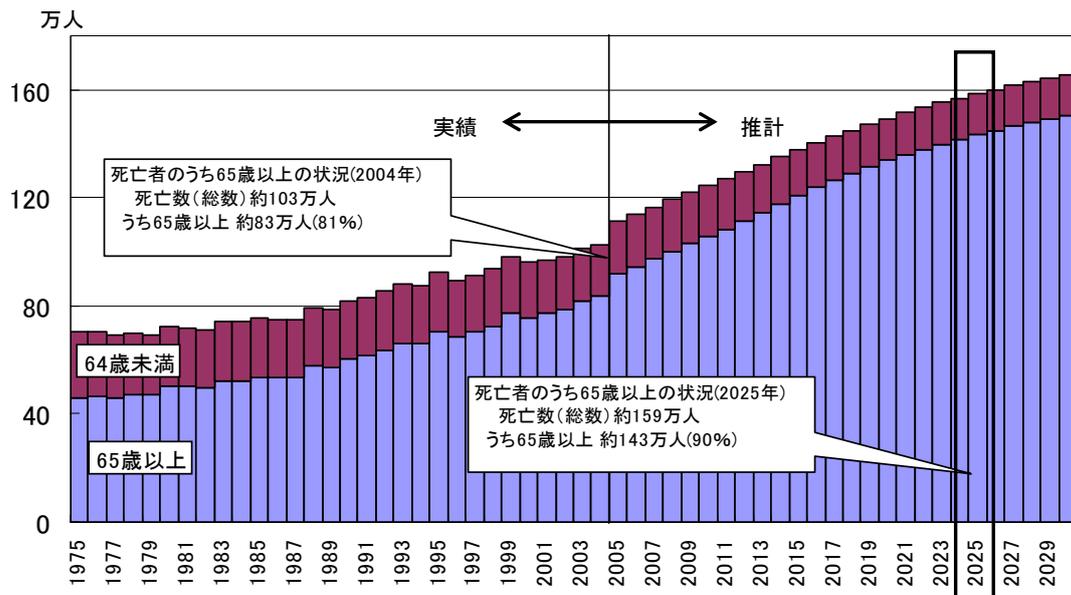


資料: 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」、「日本の将来推計人口」

#### 4. 死亡者数の推移

- 年間死亡者数（2004年現在約 100 万人）は今後急増し、2015 年には約 140 万人（うち 65 歳以上約 120 万人）、2025 年には約 160 万人（うち 65 歳以上約 140 万人）に達すると見込まれる。（図4）

図4 死亡数（総数）の推移と見通し



資料：2004年までの実績は厚生労働省統計情報部「人口動態統計」、2005年以降の推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」

年

## 5. 都道府県別高齢者人口の見通し

- 今後急速に高齢化が進むと見込まれるのは、首都圏をはじめとする「都市部」である。今後、高齢者の「住まい」の問題等、従来と異なる問題が顕在化すると見込まれる。(表3)

表3 都道府県別高齢者人口の見通し(上位・下位)

	2004年時点の 高齢者人口(万人)	2025年時点の 高齢者人口(万人)	増加数(万人) と増加率(%)	増加数順位
埼玉県	109	196	87(+80%)	1
東京都	223	308	85(+38%)	2
神奈川県	141	226	84(+60%)	3
千葉県	102	173	72(+71%)	4
大阪府	155	219	64(+41%)	5
秋田県	30	34	4(+14%)	43
山形県	31	35	4(+13%)	44
徳島県	19	23	4(+19%)	45
鳥取県	14	17	3(+21%)	46
島根県	20	22	2(+8%)	47
全国	2488	3473	985(+40%)	

総務省統計局「平成16年10月1日現在推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口—平成14年3月推計—」より